

## スリランカにおける幼児教育

清水由紀(埼玉大学教育学部助教授)

坪川紅美(桜の聖母短期大学生生活科学科講師)

### 1.スリランカにおける幼児教育の背景

南西アジアに位置し、スリランカはシンハラ語で「聖なる島」または「美しい島」を意味する。国土は、北海道の 0.8 倍の広さで、高温多湿の熱帯モンスーン気候である。人口は、2,000 万人弱でシンハラ人が 72.9%、タミル人が 18.0%、スリランカ・ムーア人が 8.0% である。公用語はシンハラ語とタミル語であるが、学校とそこで用いられる言語は、ほぼ民族により分かれている。

国内情勢については、スリランカ政府と LTTE (タミール人過激派「タミル・イーラム解放の虎」) の間の内戦は 2002 年の 2 月から停戦状態にあるが、LTTE は 2003 年 4 月より交渉を中断しているため、それ以降の平和プロセスには進展は見られていない。戦闘事態はなく、再度の戦争突入はよほどのことがないと起こらないだろう、というのが国民の意識ではないかと考えられる。北東部は独立国家としての認定を目的とし、LTTE の支配下に置かれている。キャンプの難民もまだおり、キャンプ内で幼児教育が行なわれている。

1948 年の独立以来、人的資源開発を重点課題として取り組んできたため、教育・医療は無償で提供されている。そのため、初等教育は、1985 年には、完全普及を達成している。しかし、学校設備の状況、教科書や教育資機材の有無、教師の質などの地位間格差、進学できる大学数の不足などが、高い就学率のわりに、経済活動の促進へとつながっていない状況もある。南アジア諸国に比べ、識字率 (91%) ほか、平均寿命・就学率等などの社会発展度をあらわすデータからすれば、ほぼ先進国なみの水準を表している。

ピラミッド式の進学制度となっているため、保護者は教育に熱心で、少しでもより良い学校環境のところ子どもを送ろうとして、過度な受験社会が形成されている。特に、英語教育に熱心で、地方においても、“International School”の看板があり、英語を教える塾的な施設が多く見受けられる。その背景に、海外、主に中近東で出稼ぎをして外貨を得ているという状況がある。

### 2.スリランカにおける幼児教育政策

現在、スリランカ政府は「6ヵ年開発計画(2002 - 2007年)」の教育分野の中で、「初等中等学校、特に地方校の施設の改善による就学率の向上」を謳っており、地方の学校施設の改善に取り組む意欲がある。しかし、日本の援助などによって施設改善された学校に人気が集まり、古い施設の学校には人が集まらないという問題も抱えている。

1979年に婦人問題省の下に、The Children's Secretariat が設立され、幼児教育の重要性の強調と制度化への努力が目標として掲げられた。その主な役割は、他の機関と協力して ECCD(Early Childhood Care and Development)を確立し、ECCDにおける政策の原案を作ることである。The Children's Secretariat の設立の背景として、1978年に小学校への入学年齢が6歳から5歳へと引き下げられたことが挙げられる。この1年間を幼児教育として小学校で補給するようになり、スリランカでの実質的な幼児教育制度が始まった。このことは、民間や個人による幼稚園設立にもつながった。

National Action Plan(2004)(Ministry of Human Resource Development, Education & Cultural Affairs, Sri Lanka, Education For All National Action Plan, 2004)によると、幼児教育は3~5歳の幼児が対象で、次の3つの目標がかかげられている。第1に幼稚園への就園率を2008年までに80%に増加させること、第2に教員全員の訓練および幼児教育の質的向上を図ること、第3に幼児教育の重要性についての Awareness を広げることである。この3~5歳を対象とした幼児教育形態は、プリスクールと呼ばれるものであるが、そのほかの幼児教育として、4ヶ月~3歳対象のデイケアセンターがある。これらをまとめて ECCD としている。

これまで ECCD は、政府による管轄が変わり、様々な省を経たが、現在は婦人問題省児童局が ECCD 促進の義務を負っており、プリスクールのガイドラインを作成した。地方議会や地方政府も ECCD センターの維持を奨励する。政府はプリスクール教員養成のための機関や、カリキュラム、教育・学習教材のモデルを開発している。

### 3.スリランカの幼児教育に関する基本統計

#### (1)施設数、教員数、就園者数

設置主体別のプリスクール数を表1に、地域別のプリスクール数、教員数、就園者数を表2に示す。スリランカの幼児教育の大きな特徴は、政府以外、すなわち民間や NGO やその他ボランティア団体が主体となって設置された施設が非常に多いという点である。寺や民家、農業組合が立てた幼稚園も多く、それが「民間」施設の数の多さとなって現れている。コミュニティセンターとして使われている幼稚園が多く、単独の幼稚園は少ない。元来教育熱心な文化を持つスリランカでは、早期教育のニーズとあいまって、幼稚園も数多く開かれてきた。しかし、明確な設置基準もなく、誰でも幼稚園を開設できるため、女

性が自宅で手軽にでき、かつそれなりの社会的ステータスも認められる仕事として、専門的な知識がないまま開園されているケースも多い。政府として将来理想に近づけたい設置基準はあり、ゆくゆくはそれを満たしていない園は廃止、という形になる。しかし基準が高いため、8割以上の幼稚園はクリアできないと考えられる。

初等教育とは異なり、統一した方向性がなく、統括官庁が政権交代でくるくる変わる幼稚園教育は、教育というよりも、福祉的側面（女性対象）が強い。しかし、制度的なサポートが乏しく、劣悪な条件のもとにありながら、幼稚園教育は施設数において拡大している。

表1 設置主体別のプリスクール数(2002年)

規 模	政 府		民 間		NGO		ボランティア団体		合計
	数	%	数	%	数	%	数	%	
50人未満	3,868	86.0	2,557	73.0	845	70.0	407	63.3	7,677
50～100人	437	9.7	789	23.0	345	28.0	232	36.0	1,803
100人超過	198	4.4	140	4.0	19	2.0	4	0.6	361
合 計	4,503	100	3,486	100	1,209	100	643	100	9,841

注：上記プリスクールに通う子どもの総数は2,282,231人

出所：Ministry of Human Resource Development, Education & Cultural Affairs, Sri Lanka, *Education For All National Action Plan, 2004*.

表2 地域別のプリスクール数、教員数、就園数（2000年未時点）

地 域	プリスクール数	教員数（人）	就園者数（人）
Colombo	612	1,101	22,016
Gampaha	730	996	19,267
Kaluthara	515	628	14,348
Gall	505	723	14,284
Matara	137	725	12,908
Hambantota	269	423	7,142
Mahanuwara	343	414	7,814
Nuwaraeliya	-	-	-
Matale	303	415	7,991
Ratnapura	593	812	11,145
Kegall	426	573	9,418
Badulla	556	809	13,729
Monaragala	312	467	8,773
Kurunegala	893	1,285	20,973
Puttalama	33	38	890
Anuradapura	490	779	12,146
Polonnaruwa	70	124	2,113
Trinco	145	231	4,727
Ampara	329	690	11,272
Madakalapuwa	-	-	-
Mannarama	-	-	-
Mulathive	-	-	-
Wauniyawa	86	133	3,742
Yapanaya	-	-	-
合 計	7,725	11,366	204,695

出所：Ministry of Human Resource Development, Education & Cultural Affairs, Sri Lanka, *Education For All National Action Plan, 2004*.

## (2) 就園率

総就園率は、43%(1994年)から63%(1999年)へと増加している(*Education for All: The Year 2000 Assessment Final Country Report of Sri Lanka, 2003*)。地域別の総就園率を表3に示す。地域による差はそれほど大きくはないが、表3で除外されている(データ収集

が不可能な)紛争地域においては、就園率は低いと考えられる。

表3 州別のプリスクール総就園率(3~5歳:%)

州	1994年	1999年
Western	52	64
Central	39	59
Southern	47	64
Northern	-	-
Eastern	-	-
North Western	41	68
North Central	47	65
Uva	38	68
Sabaragamuwa	38	55
Sri Lanka	43	63

注:北部・東部の8箇所(1994)、10箇所(1999)の紛争地域は除外

出所: *Education for All: The Year 2000 Assessment Final Country Report of Sri Lanka, 2003*

#### 4. 幼児教育のカリキュラムと内容

National Action Plan(2004)によると、3~5歳が対象のプリスクールでは、何かを教えるのではなく、さまざまな活動を通して、子どもの全体的な発達を促すことが目的とされ、その後の有意義な学校生活に必要なスキルを十分に身につけることが目指されている。具体的には下記の11の項目が目的とされている。

1. 感覚的経験を得るために好ましく、充実した、安全な環境を与える
2. 日々の活動を通して、よい、礼儀正しい行動パターンを身につける機会を与える
3. よい健康習慣を身につけるように導く
4. よい習慣を身につけるために好ましい環境を与える
5. 身体的発達とスキルの発達を促す機会を与える
6. 知的、創造的能力を育てる
7. ルーティンワークを行い、それを達成するスキルを育てる
8. 環境を大切にし、よく理解し、評価し、守ろうとするように導く

9. 困難な状況に立ち向かう能力を育てる

10. 共同生活の場に慣れるために好ましい雰囲気をつくりだす

11. 子どもが幸せで楽しい生活をおくることができるようにする

4 ヶ月～3 歳対象のデイケアセンターにおいては、共働きなどにより、家庭で養育できない子どもを預かる家庭の代替となる場とされている。具体的に設定されている目的や内容は、プリスクールと同様である。

親が幼稚園に払う月謝は 1 人につき 1 ヶ月、25 ルピーから 100 ルピーである。スリランカのお祝いに 1 週間 2 週間幼稚園を休むと、休みが多いからといって親が月謝を払わないこともある。

多くの幼稚園では、全員が制服を着用している。制服のサンプルをみせて、母親が作ることが多い。イギリス時代の植民地の影響から、制服を着ていることにはアカデミックな場への参加という意味があるとの考えがあるようである。また制服のあるほうが貧富の差がみえないという意図もあると考えられる。

## 5. 教員養成

National Action Plan(2004)によると、幼児教育の教員養成は次の 3 つの部局において行われる。まず第 1 に、児童局が行う、国の教員養成担当者や、ECCD の教員、保育者を対象とした養成プログラムである。第 2 に、国立教育研究所が行う、ECCD センターの保育者養成プログラムである。第 3 に、オープンユニバーシティが行う、プリスクール教員養成コースであり、ここでは就学前教育に関する学位・認定資格の取得が可能である。ただし、幼児教育や専門能力の発達に関する政府の政策がないため、さまざまな組織や個人企業家が教員養成を行っているのが現状である。そのため、不適切な養成を受けた教員による、ECD にマッチしない保育も見受けられる。

地域においても教員研修プログラムが行われているが、いずれも 1～3 日間の非常に短期のものである(表 4)。その他、NGO が主催している短期研修プログラムもある(後述)。

表 4 プリスクール教員研修プログラム(2002 年)

地域	参加者数(人)	研修期間(日)
Kandakatiya	40	1
Passara	35	1
Bandarawela	101	1
Jaffna	55	2
Mirigama	63	3

Diwulapitiya	52	3
Hali- Eala	56	1
Meegahakiwula	36	1
Welgama	80	3
Wennappuwa	42	3
Hakmana	39	3
Wellawaya	115	2
Tanamalwila	82	2
Malimbada	88	1
Galnewa	50	1
Kuliyapitiya	30	3
Diyatalawa	40	2
Lagagla	49	3
合 計	1,053	

出所：Ministry of Human Resource Development, Education & Cultural Affairs, Sri Lanka, *Education For All National Action Plan, 2004*.

教員の最終学歴は中学3年程度が平均的ではあるが、高卒もいる。幼稚園教員の給料は一ヶ月500ルピーから1000ルピーであり、小学校の教員の給料(月6000ルピー)と比べるとかなり低い。地位も小学校の先生より低い。教員の年齢は若く、結婚するとやめることが多い。結婚すると家にいなければならないためである。

園長はおらず、1人の先生が運営している寺子屋のような形式である。相互扶助の意識が高く、ちょっと子ども預かってほしい、というところからスタートするという形が多い。男性教員は稀で、女性教員の方が圧倒的に多い。500ルピーという給料をみると、生活は苦しい。小学校の教員には退職金・有給休暇・クリスマスボーナスなどがでるが、幼稚園の教員にはない。

## 6. 幼児教育の財政

表5に、公的教育総支出の対GNP比および対政府総支出比、公的教育経常支出の対公的教育総支出比を示す。データが乏しく、近年の動向を知ることが難しいが、幼児教育に関する財政としては、2002年におけるデイケアセンター設立のための財政支援の金額は、表6の通りである。それ以外の政府からの資金援助は、現在はほとんどなく、教材購入も難しい状態である。

表5 教育財政データ

項 目	1990年	1990-91年	1998年	1999年	2001年
公的教育総支出の 対 GNP 比	2.7	2.7	3.1	-	1.3
公的教育総支出の 対政府総支出比	8.1	8.1	-	-	-
公的教育経常支出の 対公的教育総支出比	81.5	81.5	82.7	-	-

注：-はデータなし

出所：Education for All Global Monitoring Report 2003/4, 2005, 2006

表6 デイケアセンター設立のための財政支援（2002年）

センター名	金額
Kataragama	43,350.00
Welimada	50,000.00
Nochchiyagama	50,000.00
Udabaddawa	50,000.00
Gampaha	50,000.00
Jaffna	3,750.00
Dehiwala	50,000.00
Mihintale	50,000.00
Polgahawela	50,000.00
合 計	397,100.00

出所：Ministry of Human Resource Development, Education & Cultural Affairs, Sri Lanka, Education For All National Action Plan, 2004.

## 7. 国際協力の動向

1979年にスリランカ政府の ECCD のプログラム導入とともに、UNICEF の協力が始まる。日本による協力の歴史も長く、1970年代から日本の宗教団体を中心に幼稚園が設立さ



れた。日本の成田山、立川の神輿園など、その多くは寺院関係の宗教団体が開園したものである。また個人的支援によって開園している幼稚園も見られる。これらは主にハード面での支援であった。

一方ソフト面においては、JICA 青年海外協力隊の派遣が、20 年以上により続けられている。1981 年から 2004 年までの派遣隊員は 589 名であり、そのうちの 35 名が幼児教育の隊員である。また、協力隊員と現地行政との協力、連携の努力により、教員養成センター（トレーニングセンター）教員養成センター附属サクラ幼稚園（モデル幼稚園）を設立したことは特筆すべきことである。同所の幼稚園指導者 4 名、教員 5 名が日本で研修を受けた。また協力隊員 9 名、11 年間継続派遣の実績もある。現在は JICA から現地へ完全に引き渡し、その後も現地での活動が引き継がれている。青年海外協力隊の活動の一つのモデルケースであると言えよう。

ただし、筆者らの行った現地調査より、次のことが明らかになった。モデル幼稚園のサクラ幼稚園では、静かに子どもが遊んでいる。広い部屋で、計画された製作など、先生も優しく接している。しかし、環境は、既成のものばかりで工夫がなされていない。日本に比べて多くのことを学んでも、形でしか入っていないことがよくわかる状況であった。養成の場面も少ししか見ることができなかったが、子どもを子どもとしてみるという視点はしっかり持たれているし、創意工夫の大切さも合わせて考えられているので、その点は評価できると考える。しかし、モデル園の様子が先に述べたように、そのことを裏付けることのできるものが何もないため、本当の意味で理解され展開されているのかは疑わしい。逆に、それが異文化である日本の技術協力の限界も感じられた。

視察に同行した JICA スリランカ事務所シニアアドバイザーの Punchi Banda 氏は、教員養成センターは、ハードは整っているが、ソフト面が足りないと言っていた。そして、技術プロジェクトをたて、クルネーガラで培ったものをモデルにしながら、他州に広めることと、幼児教育のソフト面の拡充をすることの 2 つにポイントをあて、スリランカの幼児教育振興に努める必要性を指摘していた。この国の風土を活かした保育展開ができるような技術協力が必要であろうと思われる。

日本の NGO による支援では、スランガニ基金、シャンティ国際ボランティア会などにより、主に教員養成への協力が行われている。次節でスランガニ基金の活動について、現地調査をもとに詳細を述べる。

## 8.スリランカにおける幼児教育と支援の現状(現地調査より)

筆者らは、2004 年 9 月に、コロンボや地方都市における現地調査を行った。内容は、幼稚園・保育園の見学、家庭訪問、教員へのインタビュー、保護者へのインタビュー、NGO スランガニ基金の活動の見学等である。以下にその結果を述べる。

## (1)コロンボ市内幼稚園・保育園および家庭生活の現状

コロンボ市内のもとスラム街であった幼稚園の見学と家庭訪問を行った。日本の NGO スランガニ基金と長年関係のある幼稚園で、一時は教師の給与もスランガニで払っていた。しかし、現在は給与保障が教育への向上とはつながらないと判断し、技術指導という点においてのみ関係している。

園長は、町の住民から信頼を得て、よろず相談を受けている。たとえば、両親が学校教育を受けたことがないため、小学校がその子どもの受け入れを拒否している話を聞くと、小学校へ掛け合いにでかけたりする。

スラムから脱却したものの、生活はミドルより下という状況である。月 3000 ルピーの生活は、ささやかな暮らしを維持するのに精一杯でもある。その中で、肩を寄せ合うように家族は暮らしている。よりよい生活のために、海外へ出稼ぎにでている主婦も多い。多くは中東で、出稼ぎのあと、子どもを生むため、兄弟と年の離れた子どももいる。帰ってくると、家の改築を行い、洋裁など、小さなビジネスを開くことのできる状態にまでなっている。野菜の小売をしている男性の家では、電気がなかった。自分で立てた家と真っ暗なかまどは、この国の現実を語っているように感じた。日銭は、晴れるとよく売れ、300 ルピーぐらい手に入るが、雨だと 100 ルピーぐらいしか入らないそうである。

家庭の誰かがしっかりしていると、家の中が落ち着き、子どもに明るい表情がある。貧しさより家族の絆を通しての豊さを感じる場面もあったが、生きていくという現実にはさまざまな厳しさがあるように思われた。

スランガニスタッフが預けている保育園を見学する。町の通りに面した施設は、衛生面に気をつかい、床などはきれいにされているが、託児所としての機能で精一杯と感じる。保育園の系列の幼稚園は、その逆に、道路から一步離れた静かな環境の中、園庭には固定遊具もある。しかし、園の特質が、英語を教えるということにあるため、カリキュラムも勉強一色であった。保育室内も遊具に乏しく、教室という雰囲気であった。

## (2)保護者の意識

コロンボ市内にあるペーリャコダ幼稚園（スランガニ基金が 10 年以上に渡り支援）の保護者 15 名にインタビュー調査を行った。子どもの降園時に迎えに来た保護者の中で、インタビュー調査に応じることに承諾した者のみ、個別面接にて行った。インタビュアーは、スランガニ基金の現地スタッフであり、使用言語は現地語であるシンハラ語であった。

資料 1 に保護者へのインタビュー項目を、資料 2 にインタビューの結果を記載した。結果の概要としては、保護者が幼稚園に入れた理由として、「よい習慣をつけさせる」というものが最も多かった。また、親も子どもも、幼稚園におおむね満足しているという回答をした。全員、初等教育以上の 12 年間の教育、すなわち中等教育修了までの教育を子どもに受けさせたいと思っていることが分かり、スリランカにおけるピラミッド型の教育シス

テムに子どもがさらされていく中で、初等教育の準備段階として生活習慣をつけさせる場所としての幼稚園の位置づけがうかがわれた。

また幼稚園に協力的な家庭は、幼稚園が次の学校教育において良き準備段階にあることを認識していた。スランガニ基金代表の馬場氏によると、10年前のサーベイでは、ただなんとなく園に行かせていたと答える保護者が多かったことから、保護者の意識の変化がうかがわれる。

### (3)NGO による活動

スランガニ基金では、青年海外協力隊隊員の経験を持つ馬場繁子氏により、時に JICA との連携を図りながら、次のような活動が行われている。

#### 幼稚園教員の研修

すでに幼稚園の先生として活動している方のフォローアップを目的とし、2日間の研修を実施している。先生たちは熱意があるが、保育の実践的な技術（ちょっとしたハンドワーク、ゲームのやり方）を教えてあげれば、もっと保育が実りあるものになると考えた。歌・ゲーム・英語・応急処置の方法・栄養指導（地区のドクターを呼んで講義をしてもらう）が研修内容として行われている。

#### スモールグループと積立貯金

地区で幼稚園が5～10園集まり、スモールグループを作り、保育の情報交換とシェアを行う。積み立て貯金が今年から始まり、10ルピーずつ集め貯金している。キープしたお金をない人に貸して、利子をつけて戻す。利子がたまって、それを基金にして活動していく予定である。

#### 情報誌の発行

保育情報誌を2ヶ月に一回発行し、先生たちに無料配布している。内容は、絵本箱事業の情報、折り紙、子どもに合った環境やおもちゃについての説明、英語やタミル語の会話、タオルでつくる人形などが含まれている。幼稚園経営の方法も含まれており、子どもの出席の扱い方として、休んだ理由をきくこと、長期欠席の場合に理由をきくことも含まれている。

#### 絵本箱事業

移動式の木製の箱にスリランカの絵本25冊が入っている。貸し出しバックと感想ノートをつけて週末も家庭への貸し出しを行っている。幼稚園で1ヶ月使った後、次の地区内の幼稚園と絵本を交換する。巡回して、本を貸し出している。読書は楽しみであることを知らせる目的がある。絵本を通して、楽しい世界を知ったり異文化を知るきっかけになると考えている。この事業をもとにスリランカの絵本の質を上げたいと考えている。活動の成果としては、絵本の誤字があったなどの指摘もあり、親の意識も高くなった。子どもがお父さんに読んでもらいたいと言っていた、などの報告から、絵本により家族のつながりができたという声も聞かれる。地区内の幼稚園同士の連携も強くなったようである。

#### (4)今後の課題

スリランカの幼稚園教育は、草の根レベルの人々からも支持を得て、定着している。行政の関与がないのに、これだけの普及は驚きに値し、教育熱心の国民性によって支えられていることを、視察を通して実感できた。また、長く続く内戦があるとはいえ、90%を超える識字率・90%を超える就学率がスリランカの経済活動にうまく機能していないこともある意味で不思議さを感じることであった。

一部で指摘されているように、この統計の有効性が疑問視されている。貧困地域(漁村・農村・スラム)でのリサーチでは、3割の人が、文字が読めないという結果もでている。ファンクショナル リタラシーの観点から言うと、もっと識字率は低くなるのでは思われる。また、就学率90%も、クラスがあっても先生がいないという現実があり、数字上に現れない問題も散見できた。

初等教育での問題がまだまだ、山積みのスリランカでは、幼児教育まで手が回らないことについて理解はできるが、国の根幹としての教育指針は少なくとも必要であると感じる。また、過度な受験戦争や、英語教育の期待が、幼児の発達を阻害する恐れもあり、基礎教育としての幼児教育の位置づけの確立は急がなくてはならないであろう。

上記より、今後の調査の課題として、就園率の調査と、幼稚園経験をした子どもの学習効果についての調査が挙げられる。また支援の課題としては、教育行政の幼児教育分野におけるマネジメントのキャパシティービルディングの構築が挙げられる。日本の幼児教育システムが紹介される研修の機会を増やすこと等が必要となると考えられる。

#### 【引用文献】

Sri Lanka(2004) *Ministry of Human Resource Development, Education & Cultural Affairs, Sri Lanka, Education For All National Action Plan, 2004.*

UNESCO(2003) *Education for All:The Year 2000 Assessment Final Country Report of Sri Lanka, 2003*

UNESCO(2003/4) *Education for All Global Monitoring Report 2003/4*

UNESCO(2005) *Education for All Global Monitoring Report 2005*

UNESCO(2006) *Education for All Global Monitoring Report 2006*

UNESCO(2007) *Education for All Global Monitoring Report 2007*

【資料 1】 保護者インタビューの項目

**Questionnaire to Mothers**

1 How many children do you have? I have \_\_\_\_\_children( Boy:\_\_\_\_\_,  
Girl:\_\_\_\_\_)

2 How many children did you send to preschool/nursery?

I have sent \_\_\_\_\_children.

3 Why did you decide to send your child(ren) to preschool/nursery?

Because:

4 What things do you want your child(ren) learn at preschool /nursery?

I want my child(ren) to learn:

5 What good things do your child(ren) get from education of preschool/nursery?

6 Are you satisfied with the education of preschool/nursery?

(1) Yes, so much (2) Yes (3) Rather Yes (4) Rather No (5) No

7 Are your children happy to go to preschool/nursery?

(1) Yes, so much (2) Yes (3) Rather Yes (4) Rather No (5) No

8 How do(es) your child(ren) go to preschool/nursery?

(1) By walking alone (2) By walking with brother or sister (3) By walking  
with Mother

(4) By walking with Father, (5) By car (6) Others

9 What problems have you found in education of preschool/nursery?

10 What things do you want to change better in order to give good education to your  
child(ren)?

11 Up to what grade of school do you want to send your children?

(1) Up to primary school (2) Up to secondary school (3) Up to higher secondary  
school

(4) Up to College

(5) Up to University

(6) Others

12 What kind of person do you expect your child(ren) to become in the future?

13 What is the Monthly Fee you pay to preschool/nursery?

資料2 保護者インタビューの結果

質問項目	1		2	3	4	5	6	7	8	9	10
	子どもの数	2歳未満の子どもの人数	幼稚園児の子どもの人数	幼稚園に入れた理由	幼稚園で子どもに何を学んで欲しいか	子どもが学んだ良いこと	教育への満足度	子の満足度	通園手段	教育の問題点	改善点
1	2人 (男1人;女1人)	1人	1人	知識を学ばせるため	行儀作法、字を書くこと	歌、字を書く	2	2	4	特になし	施設の充実
2	2人 (男1人;女1人)	0	2人	良い市民になるため	良い習慣と知識の獲得	よい習慣を身につけた	1		3		塾に通わせる
3	3人 (男1人;女2人)	0	3人	良い教育を受けさせる	歌、字を書く	字を書く	2	2	3	特になし	
4	3人 (男3人)	0	2人	良い行動パターンを身につける	良い習慣	早朝に起き勉強する	1	3	3		教育は問題ない
5	3人 (男2人;女1人)	0	3人	良い教育を受けさせる	良い習慣	物語を関連づける、字を書く	2	2	3		
6	2人 (男1人;女1人)	1人	1人	基本的な知識を身につける	学校の歌、手仕事	非常によい習慣	1と2	1	3	問題はない	夜勉強させる
7	3人 (男2人;女1人)	1人	2人	幼稚園時期の知識を見につける	幼稚園時期の知識を獲得	よい習慣	2	3	3	月謝	教師と親の研修
8	2人	0	2人	恐怖感を無くす	行儀良い、敬う心を持った行動	誌の暗唱	1	1	3		子どもが好きなことを中心に
9	4人 (男4人)	1人	3人	行儀作法を身につける	字を書く、良い行動	塗り絵、字を書く、良い行動	1	1	3	なし	(書いてあるけど英訳無し)
10	2人 (男1人;女1人)	1人	1人	良い市民になるため	良い資質(人間性?)	良い習慣	3	1と4	3	なし	規模の拡大
11	2人 (男1人;女1人)	1人	1人	子どもに適した環境を提供	良い教育	いろいろな新しいこと	2	1と2	3	なし	なし
12	2人 (男1人;女1人)	1人	1人	学ぶため	字を書く	良い習慣	1	1	3		
13	3人 (男2人;女1人)		3人	他の子とのかかわり方を学ぶ	良いこと	絵を描く	1	1	3		
14	2人 (女2人)		2人	恐怖感を減らす	遊ぶことと学ぶことを知る	いろいろなゲーム	1	1	5	書くこと	
15	1人 (男1人)		1人	たくさんの良いことを学ぶため	良い資質	他の子とのやりとりや関わり	1	1	3	なし	新しいことや良い習慣を教える